

令和8年2月10日
米子市地域密着型サービス
運営委員会
資料

第10期介護保険事業計画における 地域密着型サービス事業所整備の 方針に係る検討について

米子市福祉保健部 長寿社会課
介護保険第二担当

1. 国の主な動向
2. 米子市の人口の推移
3. 各種調査の実施結果
4. 分析・考察
5. 整備方針（案）と検討事項
6. 今後の予定

「令和7年7月25日 2040年に向けたサービス提供体制等のあり方に関するとりまとめ」

（一部抜粋）

➤ 2040年を見据えた基本的な考え方

医療と介護の複合的なニーズを抱える層（85歳以上人口）が急増

➤ 地域の実情に応じた「3つの類型」戦略

自治体を3類型に区分し、全国一律の仕組みから地域特性に即した効率的な介護提供体制への移行

➤ サービスの「多機能化」と「拠点化」

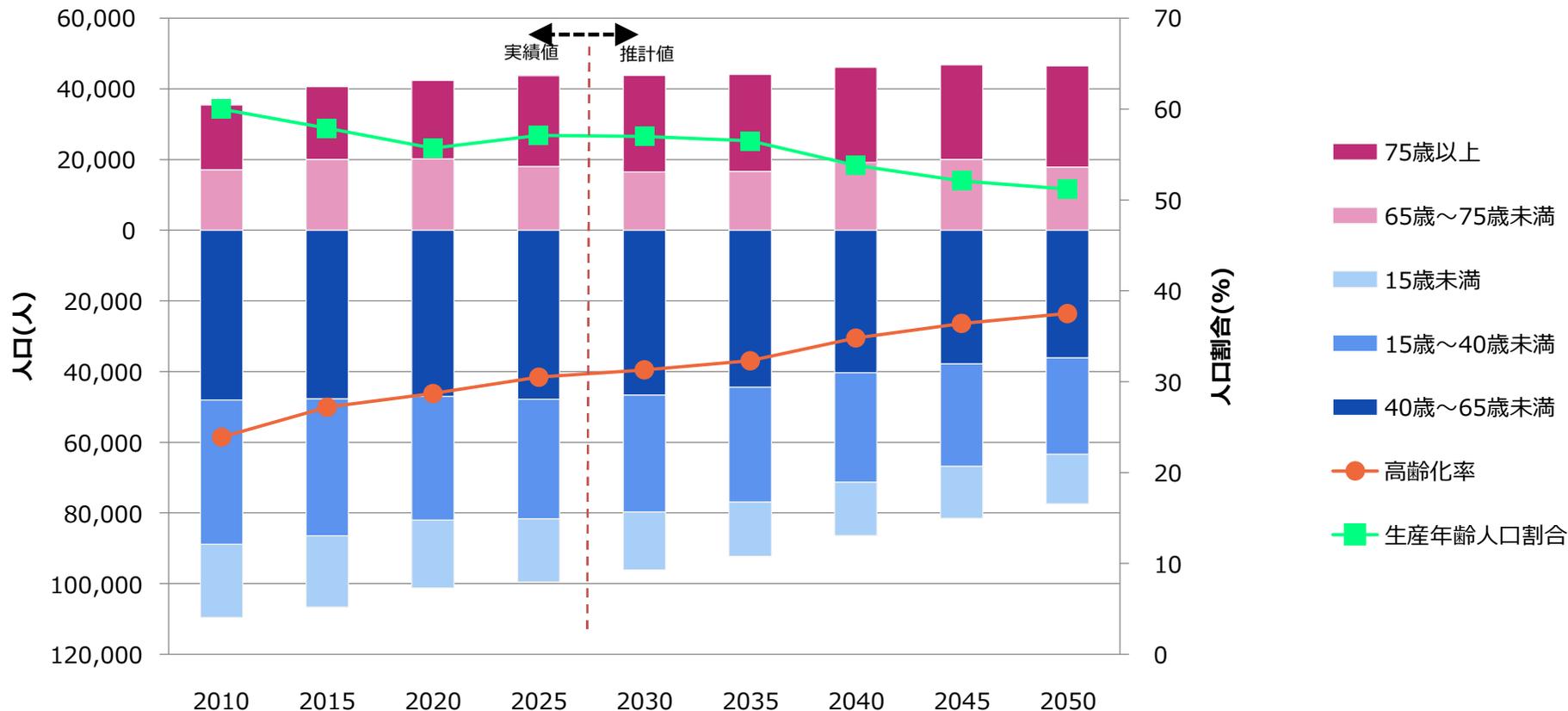
複合型サービスのさらなる促進と、地域づくり拠点としての活用などの機能強化

➤ 人材確保と職場環境改善、生産性向上、経営支援

都道府県が中心となり支援を検討しながら、各地域ごとに行政・事業者等関係者が連携を深めていくことが重要

米子市の人口推移（推計）

米子市において2045年頃まで高齢者人口は増加する一方、生産年齢人口は大きく減少。長期的には2050年頃までに高齢者人口ピークを見込むも、ますます高齢者の需要増と、介護人材の供給不足が顕著となる。



(出典) 2000年～2020年まで：総務省「国勢調査」
 2025年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

需 要

介護サービス事業所稼働状況アンケート

調査対象：事業所

調査目的：サービス別需要

在宅生活改善調査

調査対象：ケアマネージャー

調査目的：利用者別需要

入所入居待機者数調査

調査対象：施設

調査目的：施設需要

供 給

介護施設等整備意向アンケート

調査対象：法人

調査目的：事業意向把握

介護現場の実態把握のためのアンケート

調査対象：事業所

調査目的：サービス供給力

+

鳥取県内他市の事業所数比較

調査目的：市場、地域の現状

●サービス別のニーズ

- 「訪問介護」「短期入所」の稼働が高く、「多機能系サービス」も一定のニーズの高さが伺える。理由としては「エリアでの需要、サービス自体の需要がますます高まっている」であり、「**訪問介護」「短期入所」のニーズは高い傾向がある**。（稼働状況調査）
- 「通所系サービス」では利用率は低調となっている。理由としては「競合が多い」が多く、「**通所事業所数の過多の傾向がある**。（稼働状況調査）
- 近年の稼働状況の変化として、特に「多機能系サービス」ではますます稼働率が高まっている。（稼働状況調査）
- 在宅生活に課題を抱える人にとって、より必要な在宅サービスは、多機能系/定期巡回の割合が高く、柔軟なサービス対応が求められている。（在宅生活改善調査）

●入所入居のニーズ

- 介護老人福祉施設（特養）の待機者数は減少を続けている。高齢者向け住宅は他市と比較し非常に多く居宅以外の住まいの受け皿は多い状況。（待機者数調査,他市比較）
- 認知症高齢者グループホームの待機者数は微増傾向であり、認知症ケアのニーズの増加が伺える。（待機者数調査）
- 在宅生活の維持に課題を抱える人の場合でも、**施設入所より在宅継続を希望する傾向がある**。（在宅生活改善調査）

●ケアのニーズ

- サービス事業所における、ケアの内容別の需要は、「入浴」「リハビリ」「認知症ケア」が高く、**ニーズの多様化、複雑化が伺える**。（稼働状況調査）
- 家族介護者の負担となっている介護では、「認知症対応」「外出支援、送迎」が多く、在宅生活において本人とその家族も複雑なニーズを抱えている。（在宅生活改善調査）

●法人の意向

- 法人は施設等の**新たな創設は消極的**な傾向である（整備する意向が15%、整備しない意向が50%）。理由として、**人材確保も大きなネック**となっている。（整備意向調査）
- 既存事業所を休止・縮小する意向は6%。大多数の事業所は当面は継続した運営が見込まれる。（整備意向調査）
- 整備希望のうち、居宅サービスの希望が73%に対し、施設入居系サービスが27%であり、施設の整備意向は低い。居宅サービスの中では多機能系サービスの希望件数が多い。（整備意向調査）
- 新しい複合型サービス（訪問と通所）の創設に伴う整備意向については、整備する意向は5%、（整備しない意向は35%）であり、現段階では消極的であった。（整備意向調査）

●サービス別の状況

- サービス別の従業員の残業時間では、「訪問系」が多く、「通所系」が低かった。（介護現場の実態把握調査）
- サービス別の人材充足度は、**「施設・居住系」で不足傾向が最も高く、「訪問系」でも不足傾向である。一方で「通所系」は比較的余裕があった。**（介護現場の実態把握調査）

●供給体制の状況

- 稼働率の状況で、高稼働率は40%、低稼働率60%。
居宅サービス全体としては、利用者受入れの余力は残されてる傾向がある。（稼働状況調査）
- 地域密着型サービス事業所に求められている役割では「地域高齢者の相談窓口」「地域交流スペースの提供」の回答が多く、地域への積極的な姿勢が伺える。（整備意向調査,稼働状況調査）

地域密着型サービス事業所

	高齢者人口	訪問系	通所系		多機能系		入居系		入所	密着事業所数合計
		定巡	通所	認知症通所	小多機	看多機	GH	特定施設	特養	
米子市	43,400	5	50 (24)	5	16	3	23	13 (2)	10 (2)	80
鳥取市	56,330	1	96 (37)	6	26	2	27	13 (5)	17 (1)	105
倉吉市	15,963	0	2 (6)	3	5	0	14	1 (0)	3 (0)	32
境港市	10,780	1	7 (3)	1	3	0	6	2 (1)	3 (1)	16

(休止中は除く、()はうち密着型)

高齢者向け住宅

	サ高住		有料老人ホーム		居室数合計
	棟数	居室数	棟数	居室数	
米子市	18	998	17	775	1,773
鳥取市	16	491	30	658	1,149
倉吉市	4	129	3	42	171
境港市	4	200	5	134	334

🏠 多機能系サービスについて

- 複雑化するニーズに対応するため、在宅介護の強化が求められる中で、柔軟な回数、複合的なサービス提供が可能な、多機能系サービスの重要度がますます高まると考えられる。
- 法人の整備意向は低いものの、多機能系サービスについては少なからず整備意向があり、整備促進の可能性は残されているのではないかと推察される。
- 地域密着型サービス事業所は、地域での相談窓口など様々な機能が期待されており、事業所自身にもそういった認識が浸透していると推察される。中でも多機能系サービスはケアマネ機能も包括しており、地域や家族にとっても特に貴重な存在、重要な拠点となり得るのではないかと推察される。

📦 サービス別のバランスについて

- 訪問介護と短期入所について不足している傾向が強い一方、通所介護については稼働が低く事業所が飽和傾向にあり、サービス基盤のアンバランスがあるのではないかと推察される。
- 通所介護事業所が、不足する他サービスの提供も行うことができれば、資源の有効活用が見込めるのではないかと推察される。

🏢 事業基盤の持続性について

- 市の事業基盤を「維持」していくために、行政の現場支援と、法人事業所による現場改善が、今後ますます必要となると考えられる。
- 市と県ならびに事業所との連携を強化することが、事業基盤の諸問題にとって重要であり、市としてさらに連携の強化を図っていくことが必要ではないかと推察される。

多機能系サービスの促進

（案）
多機能系サービス（小多機・看多機）のさらなる充実、機能強化を図る

（検討事項）
法人への促進に向けたアプローチ・既存事業所を支え、強化する方策

通所介護の有効活用促進

（案）
通所介護事業所を多機能系サービス・新しい複合型サービス（訪問・通所）への転換など、活用促進を図る

（検討事項）
既存通所事業所への転換のアプローチ等の方策

事業基盤の持続性確保

（案）
人材確保、人材定着、生産性向上など介護現場の支援を今後強力に推進し、持続性の確保を図る

（検討事項）
地域行政として、事業所との距離の近さを強みとした具体的な支援策

今後の予定

本日 地域密着型サービス運営委員会 令和8年2月

➤ 調査結果ならびに分析内容の一次報告

具体的な整備方針、施策等の検討 令和8年2月～6月

令和8年度第1回
地域密着型サービス運営委員会 令和8年6月（予定）

➤ 整備方針の具体案の提示

令和8年度第2回
地域密着型サービス運営委員会 令和8年10月（予定）

➤ 整備に係る計画案の提示

第10期介護保険計画策定（令和8年度11月）